

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業 ミュージアム支援地域人材育成事業
・国際交流拠点形成事業)

事業名：都市日記shinjuku

事業者名：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

住 所：東京都新宿区西早稲田 1-6-1

TEL：03-5286-1829

FAX：03-5273-4398

HPアドレス：<http://www.waseda.jp/enpaku/>

連携事業者名：新宿区教育委員会所管の初等・中等教育
機関ほか

会 場：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

事業期間：平成 22 年 6 月 1 日 ～ 平成 23 年 3 月 15 日



1. 館の使命と本事業の関係

演劇博物館は、昭和 3 年 10 月、日本近代演劇の祖ともいべき坪内逍遙博士の古稀（70 歳）と、逍遙がその半生を傾注した「シェークスピア全集」全 40 巻の翻訳が完成したことを記念して、各界有志の協賛により設立された。当館設立の目的は、世界の演劇を比較研究し演劇文化の向上発展を通じて世界文化に貢献することである。日本で唯一の演劇専門の博物館として、また、学校法人のもとに設置された博物館として、地域の社会教育に貢献するために、地域の特性を活かした演劇・映像作品を地域の中高生とともに制作する事業を実施することは、演劇研究を通じて世界文化に貢献するという当館の使命を全うするための礎となる。

2. 企画内容

①事業目的

新宿区教育委員会をはじめとする地域の教育機関と連携し、中高生が、新宿区を題材とした演劇・映像作品の制作に参加出来る機会を設ける。また、新宿区の文化や地域性にもとづく文化資源として制作した作品を地域住民と共有し、地域住民に現代演劇・映像の分野に親しみや関心を深めてもらえるようにする。

②事業概要

現代演劇の制作・上演に触れる機会を広く中高生に提供するために、本館館員と地域の教育者や本館を支えるボランティア、演劇関係者による企画委員会を設置する。同委員会での検討をふまえ、本館館員と演出家・戯曲家の松田正隆氏、同氏が代表を務める劇団マレビトの会のメンバーから構成されるワークショップ委員会により、新宿区ならではの文化や地域性取材し、撮影した映像を用い、演劇作品として構成するまでを体験するワークショップを実施する。このワークショップの最終日には、無料で一般公開する舞台発表会を開催する。

また、舞台発表とそれまでのワークショップの過程をドキュメンタリー作品として記録し、新宿区立中央図書館をはじめ地域の教育機関に提供する。

3. 事業実績

(1) 事業の内容及び日程

- 企画委員会 計3回

第1回：2010年 6月1日 基本方針の確認、協議。

第2回：2010年 9月2日 広報活動および参加者の募集方法について協議。

第3回：2010年12月5日 参加希望者への説明、オーディションの対応策について協議。

- 参加希望者への具体的な事業説明とオーディション：2010年12月5日

同日に開催した第3回企画委員会での協議をふまえ、ワークショップ委員が実施。

- ワークショップ（前期 取材・撮影）：2010年12月25日～12月28日

12月25日 グループに分かれて新宿を歩く。

12月26日 前日の感想を発表、ディスカッション。個別に新宿を歩き取材、撮影。

12月27日 ディスカッション、新宿の印象をテキストにまとめる。個別取材、撮影。

12月28日 各自の街歩きの印象や感想を発表・報告する。



- 12月29日～1月5日（学内施設閉鎖期間）メーリングリストを介して意見交換。

- ワークショップ（後期 編集・舞台稽古）：2011年1月6日～1月9日

1月6日 実在の町や人物を題材としたドキュメンタリー形式による舞台作品のビデオ鑑賞と実演に向けてのレクチャー、発表に向けての創作。

1月7日 発表に向けての創作、個別稽古、ディスカッション。

1月8日 ディスカッション、全体稽古、通しリハーサル。

1月9日 発表公演。



（発表公演の中で取材映像を用いた部分）



(ワークショップの参加者、スタッフ)

(2) 参加者の数 延べ 332 名

- 企画委員会委員 13 名
内訳：(館員 5 名+学外者 4 名) ×2 回 (館員 4 名+学外者 7 名) ×1 回
- ワークショップ委員会委員 11 名
内訳：(館員 4 名+学外者 7 名) ×4 日間×2 回
- ワークショップサポートスタッフ 4 名 (舞台関係者によるボランティア)
内訳：4 名×4 日間×2 回
- ワークショップ参加者 11 名
内訳：(高校生男子 7 名+高校生女子 1 名+中学生女子 2 名) ×4 日間×2 回
- 発表公演 (2011 年 1 月 9 日) 来場者 127 名

(3) 事業により作成した印刷物等

- 参加者募集用ポスター (A2 版 カラー) 100 部
- 参加者募集用チラシ (A4 版 表面 カラー、裏面 白黒) 10,000 部
- 発表公演当日配布用プログラム・出演者紹介 (白黒 業務用普通コピー) 200 部
- 映像アーカイブ用 DVD 50 部 (新宿区内への教育機関等へ配布、館内利用のため収蔵)

4. 事業の成果及び今後の課題 (参加者の意見を含む。)

「新宿」という街を題材に演劇・映像作品をつくるということにおいて、居住地や通学先が新宿区内か否かという違いだけではなく、これまでの演劇に対する経験も、本格的に劇団活動を行っている者からほとんど未経験という者までおり、特定の視点や手法に偏った新宿像ではない演劇・映像作品を作ることができ、地域の文化アーカイブとしても優れたものが完成し、目標としていた成果を達成することが出来た。

ただし、今後の課題として、広報活動の効率化と博物館事業の周知における公平性の両立という問題がある。

ワークショップの参加希望者がどのようにしてこの活動を認知したのか聞いたところ、館外の組織へ掲示、配布を依頼したポスター、チラシを偶然見かけてというケースは少なく、積極的に広報した相手先である学校の教員や演劇関係者からこの事業を紹介されたというケースがほとんどであった。事業の周知と参加者の確保において、参加を希望しそうな者が在

籍していると考えられる組織へ広報活動を特化して行う方が、より高い費用対効果は期待出来るだろうし、広く一般に向けた文化機関が数多く存在する都市部では、他の文化機関の活動に埋没して肝心の事業対象者に認知されないということを防ぐ工夫も必要である。しかし、安易に費用対効果の面だけに捕らわれ、特定の相手への広報活動に偏ることで、参加者の多様性が保てなくなること、さらには博物館という社会教育機関としての広報活動において重要な公平性が担保されなくなることへの注意も必要である。

なお、参加者から回答があった感想や意見は以下のとおり。

● ワークショップ参加者の感想、意見

① 参加したきっかけ

○学校の先生に企画を紹介されて参加しました。本格的な演劇の舞台裏を知りたかったのも理由として挙げられます。○参加しているサークルでチラシを見ました。○進路相談の面接で、校長先生から紹介されました。○ミュージカルの先生が演劇博物館へ行った際にポスターを見つけ、チラシを頂いたことがきっかけです。

② 参加してよかったこと

○演劇を生業としている方々や、将来目指している同世代の人たちとのお話は新鮮でした。本格的な演劇というのがいつもあのような舞台裏なのかは知る由もありませんが、とても良い経験をさせていただきました。それと、経験云々は関係なくとても楽しかったです。○とてもいい経験だったし、何より楽しんで参加できました。○本来なら知り合うことの出来なかったであろう人達と出会うことが出来たこと。「演劇」の概念を越えた新しい「演劇」に触れることが出来たこと。

③ 今後、改善して欲しいこと

○特になし。演劇博物館の方々も手厚くサポートしていただき、本当にありがとうございました。○具体的にどの様にすれば良いのか、などの説明があるとわかりやすかったです。でも、先入観などがない分自由に出来たのでその事業によりけりだと思います。

● 発表公演（2011年1月9日）来場者の感想、意見

○すばらしいです。十一人十一色のドキュメンタリーと創作のミックス・中間の不思議な雰囲気でした。とても面白かったです。○演劇って何だろう？みんなの十日間が都市新宿に向き合ってきた姿勢が見えました。○色々な視点から新宿を知りました。普段の生活から気にして歩いてみたいです。皆さん、お疲れさまでした。ステキでした。○興味深かったです。彼らの5年後、10年後の日記をみてみたいと感じます。知人の演出家志望の早大OBに似ている男の子がいました。将来楽しみです。○実際に歩いて、話して、感じて、それをまとめて発表するなんて、そんなことができるとは・・・感心しました。○すごいドキドキした（笑）けど面白かったよ！とても！！○とても面白かったです。新宿の街の印象が個々の学生の目を通して正直に生き生きととらえられていて、それがまた学生のことばで表現されていて、面白い時間をすごせました。こういう表現方法もあるのだと感動しました。学生たちの表現力にも感心しました。○地域の若者が参加するプロジェクトに感銘を受けました。○取りあげられている地域の様子を知っているので、一人一人の場面をリアルに想像できて楽しかったです。俳優さんの一人一人の個性が初々しく光っていてとても良かったです。街をこのように観察して再表現する意義は大きいと思います。